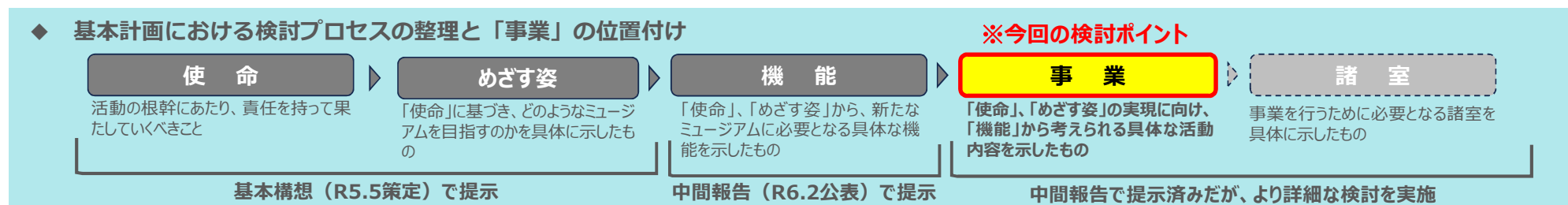


1 前回の確認と今回の検討のポイント

（1）中間報告での整理（「事業」の位置づけ）※前回資料再掲



（2）事業活動の基本的な方針（案）※前回資料再掲

1 過去だけでなく、現代の社会や生活を捉え、変わりゆく川崎の姿を未来につなげていく活動を行う。 <Point> ① 収集の考え方や展示のあり方を従来のものから再検討し、これまで蓄積してきた過去だけでなく、我々が生きる現代についても的確に捉え、未来に継承する取組を行う。 ② 歴史や文化を伝えていくにあたり、市民が親しみを持ちやすいよう、暮らしや生活との結びつきを意識した取組を行う。	2 市民をはじめとした多様な主体との共創により、文化芸術の裾野を広げ、様々な交流や学びの場を広げる活動を行う。 <Point> ① 市民や企業、関係団体のほか、福祉や医療、観光など他分野との共創を通じ、誰もが文化芸術に携わり、親しみ、楽しめる環境づくりに資する取組を行う。 ② 教育関係機関のニーズや現状・課題を把握し、市民が主体的に学ぶことができる場や、学ぶことの楽しさを発見できる取組を行う。	3 関連施設や他事業との連携・協力により、市域の魅力や文化的価値の向上に資する活動を行う。 <Point> ① 蓄積した資料・情報の活用のほか、市内の他の文化施設等と連携・協力し、生田緑地をはじめとした市域の魅力や文化的価値の向上につながる取組を行う。 ② 博物館法の改正趣旨を踏まえ、文化観光その他の活動の推進を図り、地域の活力の向上に資する取組を行う。
--	---	---

（3）基本計画策定に向けた「事業」の検討の進め方

STEP01	STEP01 事業活動に関する現状・課題等の整理
STEP02	STEP02 事業活動全体のポイント・考え方の整理
STEP03	STEP03 収集機能、展示機能に係る具体的な活動方針の検討
STEP04	STEP04 「事業」の整理及び「ラーニング機能」なども含んだ「具体的な事業内容（案）」の整理 - 事業活動の基本的な方針（案）に基づき展開していく事業活動について、3つの「事業」として整理した。（次ページ参照） - これまで以上に注力を図っていくラーニング等の機能に係る具体的な活動を整理するとともに、「IN ACTION」にあたる開館前の活動と、開館後5年間程度の2段階の活動案を具体化する。

前回の検討範囲

今回の検討ポイント

2 「事業」の整理について

(1) 「事業」の整理

- ・新たなミュージアムの「使命」、「めざす姿」の実現に向け、「事業活動の基本的な方針（案）」に基づき展開していく活動について、9つの「機能」（次ページ【参考】参照）を包含する形で**3つの「事業」として整理した。**
- ・各「事業」では、基本計画中間報告で整理した「基本的な取組」と「特徴的な取組」に整理するとともに、前回懇談会で示した「事業活動全体における今後の具体的な検討ポイント」（次ページ【参考】参照）を踏まえながら、各「機能」を果たす活動を展開していく。

※今回の検討ポイント

 基盤事業	 展示事業	 コミュニケーション※事業
主に対応する機能：収集機能・保管機能・調査研究機能・修復機能・交流機能 （概要） ミュージアム運営の根幹となる収集、保管、調査研究、修復等の活動を行う。 ➢ 基本的な取組（例） ● 新たな収集方針に基づく適切な資料・作品の収集やデジタル・アーカイブ化を含めた効率的・効果的な保管 ● 収蔵品等の魅力や価値の向上につながる調査研究 ● 被災収蔵品の修復及び修復状況等に関する情報発信 ➢ 特徴的な取組（例） ● 市民や「ことろ」、大学等の関係機関など多様な主体と連携した調査研究 ● 修復活動で蓄積した知見・ノウハウの展示事業やコミュニケーション事業での活用（修復をテーマにした企画展示や拠点施設における市民参加型の修復WSなど）	主に対応する機能：展示機能・ラーニング機能・交流機能 （概要） 基盤事業の成果を基に、収蔵品や調査研究活動の成果を、展示等を通して市民に対して発信する活動を行う。 ➢ 基本的な取組（例） ● 川崎の歴史や文化、特徴をより親しみやすく伝える常設展示 ● 市民のニーズや社会情勢等を捉えた、時宜を得た企画展示（巡回展等） ● 来館者が収蔵品の魅力や新たなモノの見方や考え方を発見できる収蔵庫展示 ● ミュージアムや地域の魅力を伝える「まちなかミュージアム」による出張展示 ➢ 特徴的な取組（例） ● 博物館、美術館の分野を横断する視点（デザイン等）による、融合の特徴や強みを活かした展示 ● 大きな展示場所がなくとも学校や職場等で活用が可能なモバイルキットの展開	主に対応する機能：ラーニング機能・地域共創機能・人材育成機能・交流機能 （概要） ミュージアムと市民や地域が、対話を通じた双方向の関係で、新たな学びや発見をともに創り出す活動を行う。 ➢ 基本的な取組（例） ● 市民が主体的に学べる場づくりや、様々な学び方の発見につながる活動の展開 ● 年齢や障がいの有無等を問わず、多くの人々が学び、考え、表現する機会の創出 ● ミュージアム活動を通じた様々な形での市民や地域とのネットワークの構築 ➢ 特徴的な取組（例） ● 「ことろ」との共創による、ミュージアムへアクセスしづらい人々やケアが必要な人々などへのアプローチ ● 多様な主体と連携した、地域の課題解決や魅力発掘につながる活動の展開 ● 生田緑地内他施設等と連携した、エリアの魅力向上に資する文化観光活動

※ICOMの博物館の定義にある「倫理的かつ専門性をもってコミュニケーションを図り、コミュニティの参加とともに博物館は活動」という記載を参考に、「コミュニケーション」という名称を採用した。

(2) 評価測定・検証についての指摘と対応

- ・川崎市文化芸術振興会議市民ミュージアム部会※による令和5年度事業に対する評価より、今後の事業を進めるに当たっての課題を整理し、今後の対応策を記載した。
- ・具体的には、今後管理運営計画を進める際に検討していく。

※「市民ミュージアム部会」…川崎市市民ミュージアムの事業評価及び円滑な運営のため、市の附属機関である川崎市文化芸術振興会議の部会として2022（令和4）年11月1日に設置

■評価方法についての主な指摘

- ・成功指標を具体的に盛り込んでもらえると、今後判断がしやすい。
- ・昨年度の来場者数から見て、今年度の見積もりと現実がどうだったかがないと評価が難しい。
- ・アンケートについては、どのくらいの人において、その内の回収率や満足度がどうだったかを把握しないと評価しづらい。
- ・アンケートを書ってくれる人は大体答えてくれるので、今日は積極的にアンケートをとるという日を作る等すると違うのでは。
- ・アンケートは、データ分析として定量的にとるときはもう少し機械的にとる方法もあるのでは。
- ・QRコードでアンケートを回収できる仕組みも使うのは有効ではないか。
- ・SNSや動画の再生数もわかると、より評価もしやすくなる。

第1回会議（令和5年12月5日）、第2回会議（令和6年3月14日）開催摘録を参照

■考えられる今後の対応策

- ・現状の来館者アンケート項目やとり方の精査
- ・定量データの取得手法の検討（SNSやHPのアクセス数・カメラの画像解析などを活用した来館者数・滞在者数の測定など）
- ・次年度の定量的な目標の設定と達成度の確認
- ・新たなミュージアムの使命に基くロジックモデルの整理
- ・生田緑地他館との連携による評価指標の設定（回遊状況が把握できるアンケート項目の設定など）など

【参考】事業活動計画における今後の具体的な検討のポイント ※前回資料再掲

機能名	機能力カテゴリー	事業活動全体における今後の具体的な検討のポイント
①収集機能	コンテンツ開発・維持	①博物館分野における <u>近現代資料の収集の重点化</u> ②美術館分野における <u>市民生活、現代の時代性や社会状況を表現した作品の収集</u> ③博物館分野、美術館分野で連動した効果的な収蔵品の活用を念頭に置いた収集の実現 ④収蔵品の体系的な管理や魅力発信を目指したデジタル・アーカイブ化とその活用
②保管機能		
③調査研究機能		
④修復機能		
⑤展示機能	コンテンツ活用	①博物館分野の <u>常設展示テーマ「水と共同体」の再検討</u> 及び川崎の歴史や文化、特徴をよりわかりやすく伝える、 <u>新たな常設展示の検討</u> ②学生だけでなく、教員も含めた <u>学校全体としてのミュージアム利用につながるコンテンツの検討</u> ③市民館等での連続講座への協力・支援など、 <u>様々な学びの場でのミュージアムのコンテンツの活用</u> ④市民が <u>主体的に学べる場の創出</u> や、 <u>様々な学び方の提案</u> ⑤生田緑地エリアの文化施設と連携した、 <u>エリアの文化的価値や魅力向上への貢献</u> ⑥産業観光など、 <u>川崎市の他分野の特徴的な取組との連携</u> ⑦「アート・フォー・オール」の実現に向けた <u>ミュージアム活動の実施</u>
⑥ラーニング機能		
⑦地域共創機能		
⑧人材育成機能		
⑨交流機能	つながり創出	①ミュージアム活動全般における <u>市民参加の可能性の検討</u> ②市内の関連施設等との連携により、利用者層の幅を広げるなど、 <u>相乗効果を上げる取組の展開</u> ③様々な主体とのミュージアムの連携・活用につながるような、 <u>まちなかミュージアムの取組の積極的な広報</u> ④多様な市民や関係機関と連携した、 <u>多様な主体による文化財の保存・活用を進めていく取組の展開</u>